

研究施設昭和50年度報告

I 人事移動

5月1日より当施設員山岸哲氏は京都大学理学部動物学教室へ内地留学した。また、10月1日より山岸哲氏は大阪市立大学理学部生物学教室の講師として採用され、信州大学教育学部は9月30日をもって退職された。同氏は昭和46年4月より当施設に赴任され、4年6ヶ月の間当施設の充実、発展のために御苦労いただいた。氏の今後の御活躍を祈りたい。

II 運営会議

7月7日、運営委員会、於学部、参加者。羽田施設長、滝沢、北原、鈴木、掛川、浅輪、西沢、竹内、高見沢、新井各委員、中村、赤羽各施設員、白倉事務長、山田事務長補佐、山田庶務係長、田子会計係長、昭和49年度事業報告、決算報告、昭和50年度事業案、予算案につき討議し承認した。

III 施設管理・充実

自然観察路、本年は珍しい大雪のため観察路全コースが歩行可能となったのは6月中旬になってからであった。雪のため樹木がおれたり、説明板が落ちたりたおれたりし、これらの除去、補修に骨おった。団体見学者が増大し、特に長池広場・環状ルート of 破損・汚染が目立ち、これらの補修、除去に追われた。案内板に入園心得を書いたりした。入口にあったダケカンバは本年をもって完全に枯死し、道路への危険が増して来たので、地主、環境庁、道路公団と話しあい除去した。見ごたえのある樹木だったのでおしまれる。概略160年の樹令であることがわかった。根元を輪切り標本にのこす。

実験室整備、第二実験室に中型のドラフトチャンバーを入れた。今まで標本作製に悪臭を放っていた問題がこれで解決した。

IV 印刷物

パンフレットは5000部を印刷し、展示館入口にて無料配布した。

研究業績第13号は800部を印刷し、各方面に頒布した。British Museum, American Museum of Natural History よりバックナンバー及び別刷の要求があった。

V 自然教育実習

昭和50年度理科教材単位取得学生の志賀自然教育実習は二泊三日で行なわれた。第1日は当施設自然園内の観察路で自然の見方を中心に実習、第2日は池めぐりコースに沿いその応用と自然の広大さを体験、第3日に当施設自然園で鳥類の観察をとおして生命と自然の結びつきを見る。6月27日より7月5日まで88名、8月27日より8月31日まで68名、10月3日より10月10日まで99名、合計255名が実習終了した。17ページのテキストを作製し全員に配布した。

VI 施設利用状況

昭和50年4月1日より、昭和51年3月31日までに、当施設を宿泊利用された方々は延べ2168名であり、その内冬季宿泊者は711名、夏季宿泊者は1457名である。これらの内の主な利用状況を表1に示す。

VII 一般参観者の利用状況

5月1日より11月23日まで、展示館入口に来館者名簿を常備して、そこに記入されたものについて集計し

第一表 研究施設利用状況

〈主な使用目的と利用者〉

野鳥生態観察	5. 3— 4	日本野鳥の会大日向政子外 9 名
野尻湖発掘調査団地質まとめ	5.20— 21	信州大・教・志賀施設赤羽貞幸外11名
長野教育事務所指導主事研修会	5.30— 31	長野教育事務所学校教育課松本勉外11名
亜寒帯林土壌の研究	6. 5— 7	玉川大・農・竹島征二外 5 名
高原植物の観察	6. 7— 8	信州大・教・松沢邦彦外24名
自然観察野外実習	6.10— 11	信州大・教・附属養護学校小学部池井高行外16名
特殊教育セミナー	7.14— 15	信州大・教・間中大十外 7 名
生物学野外実習	7.17— 21	東京都立大・理・小野幹雄外19名
亜寒帯林の鳥類調査	7.16— 21	林業試験場東北支場由井正敏
卒論実地指導	7.21— 23	信州大・教斉・藤豊外 2 名
ニホンザルC群調査	7.26— 8. 5	京大霊長研・渡辺毅外14名
亜寒帯林土壌の研究	7.26— 8. 2	玉川大・農・竹島征二外 4 名
松本研夏期セミナー	8. 2— 5	信州大・工・松本光功外 6 名
信州大監督者研修会	8. 4— 9	信州大・本部・植松喜弘外34名
エレクトロニクス・デバイス・セミナー	8.11— 13	金沢大・工・鈴木正国外28名
生物学野外実習	8.17— 20	秋田大・教・小笠原嵩外23名
自然観察野外実習	8.21— 23	信州大・教・養護学校中学部依田英夫外30名
日仏土壌動物セミナー	9. 4— 9	京都大・教養・吉井良三外21名
長野盆地成因セミナー	9.13— 14	信州大・教・志賀施設赤羽貞行外 5 名
保健体育セミナー	10.14— 15	信州大・教・松沢平一外17名
地質学生実習	10.10— 12	信州大・教・斉藤豊外 4 名
亜寒帯林土壌の研究	10.23— 25	玉川大・農・竹島征二外 5 名
長野市周辺の地質セミナー	11. 8— 9	大阪市大・理・藤田和夫外 2 名
雪上気象観測実習	12.20— 27	信州大・教・岩井邦中外 7 名
滑動実験による斜面形状の研究	1.12— 14	信州大・工・上田隆外 7 名
写像関数セミナー	1.19— 21	信州大・工・村上泰啓外15名
財政学セミナー	1.16— 18	信州大・人文・小湊繁外11名
動物生態セミナー	2.17— 20	東大・農・渡辺守外 4 名
雪の結晶の研究	2.16— 29	気象研小野晃外 1 名
卒業研究	通 年	鳥類調査 工藤悦男 地質調査 赤井靖彦, 津滝咲子 気象観測 岡庭 聡

た。団体については10名以上のグループについて集計した。なお、この集計は来館者の自主記入方式であるため、未記載者も相当数存在しているものと考えられる。

全利用者数 32,001名 内 個人利用者 7061名

団体利用者 24,940名

これらの詳細は次の表によって示されている。

- 1 来館者の団体の種類（第1表）
- 2 団体および個人の県内外の比率（第2表）
- 3 月別参観者数（第3表）

第1表 来訪団体の種類

	県 外		県 内		計	
	団体数 (%)	人 数 (%)	団体数 (%)	人 数 (%)	団体数 (%)	人 数 (%)
小 学 校	25(9.4)	2,134(9.0)	1(4.0)	122(9.3)	26(8.9)	2,256(9.0)
中 学 校	76(28.5)	14,223(60.2)	3(12.0)	397(30.2)	79(27.1)	14,620(58.6)
高 等 学 校	51(19.1)	4,017(17.0)	5(20.0)	590(44.9)	56(19.2)	4,607(18.5)
大 学	39(14.6)	1,288(5.5)	5(20.0)	82(6.2)	44(15.1)	1,370(5.5)
一 般	76(28.5)	1,964(8.3)	11(44.0)	123(9.4)	87(29.8)	2,087(8.4)
計	267(100.1)	23,626(100.0)	25(100.0)	1,314(100.0)	292(100.1)	24,940(100.0)

第2表 団体および個人の県内外の比率(%)

	団 体					個 人	計
	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	大 学	一 般		
県 内	3.8	3.8	8.9	11.4	12.6	1.4	8.6
県 外	96.2	96.2	91.1	88.6	87.4	98.6	91.4

第3表 月別参観者数

月	個 人 (%)	団 体		計
		団 体 数 (%)	人 数 (%)	
5	607(8.6)	1(0.3)	11(0.1)	618(1.9)
6	365(5.2)	39(13.4)	3,861(15.5)	4,226(13.2)
7	1,528(21.6)	95(32.5)	7,179(28.8)	8,707(27.2)
8	3,502(49.6)	83(28.4)	9,789(39.3)	13,291(41.5)
9	496(7.0)	31(10.6)	2,444(9.8)	2,940(9.2)
10	475(6.7)	41(14.0)	1,633(6.5)	2,108(6.6)
11	88(1.3)	2(0.7)	23(0.1)	111(0.3)
計	7,061(100.0)	292(99.9)	24,940(100.1)	32,001(99.9)